



写真1 旅行者を迎えてくれる八重桜



写真2 のどかな田圃風景(よく整備された田圃)

村内は、四季折々、色々な草花で彩られ、青い空と緑の森、春にはツツジや不思議なほど沢山ある八重桜などの花々が咲き誇り、それにみごとに整備された田圃の風景がマッチするのである。旅人としては、どんどん写真を撮りたくなる。村に入って感じるのは、「この村は生きている」という感覚である。美しい村で、ゴミひとつ落ちていない。ゆっくりと村に滞在し

て、毎日トレッキングを楽しむことができれば最高だと、ふと思ってしまう。トレッキングで疲れたあとは、冷たい小川の水で足を冷やし、濁酒の瓶を枕に昼寝でもすれば何と素晴らしいだろうと想像する。村内は非常に平坦な地形で、縦横無尽に村道と小川が走っており、トレッキングコースを作ると、10を超えるモデルコースができるのではないかと思う。コースは、それぞれに景観が違うのである。しかし、ここで問題なのは、泊まるうにも宿泊施設がないことである。昔は旅館もあったようだが、現在では旅館もない。いま流行のキャンピングカーだと、車を停めることのできる空き地はたくさんあるので、宿泊も十分に可能ではあるのだが、その仕組みも未だない。

#### (5) トレッキングルートの可能性

三原村は、昔からお遍路さんの通り道でもある。最近では特にお遍路をされる人びとも多くなり、村内ではお遍路姿の人と良くすれ違う。田園の中をお遍路する姿と、村の風景はみごとにマッチするのである。

三原村は、古くは「三原郷」と呼ばれ、明治22年の町村制施行により「三原村」となった。現在は13集落によって構成されている。2006年9月現在、人口1907人、世帯数789である。周囲を450～850メートルの山々に囲まれている割には、村の中は不思議なくらいに平坦な地形である。まさに盆地のような地形ではあるが、三原村は風の通り道でもあり、いつも爽やかな風が吹いている。村道、農道はよく整備されていて、村内はどこに行くにも楽に移動できる。車どころか、人も歩いていない。ただ、集落は各所に点在しており、道を歩いていても淋しいという感じはない。この地形と自然の景観を見て感じたことは、村内を縦横に走る村道を活用してトレッキングのルート(コース)を作ることができれば、非常に面白いのではないかということである。村道は良く整備されていて、綺麗な公衆トイレも各所にある。